

# 一級河川淀川水系神崎川下流ブロック流域の概要（抜粋版）

## 神崎川、中島川、左門殿川、西島川

平成 21 年 7 月

大 阪 府

\*\*\*\*\*

### 目 次

<p><b>1. 流域の概要</b></p> <p>1.1 神崎川下流ブロックの構成（神崎川、中島川、左門殿川、西島川）-----1</p> <p>1.2 神崎川下流ブロック流域市の概要-----</p> <p><b>2. 流域の特性</b></p> <p><b>2.1 自然環境特性</b>-----</p> <p>(1) 地形・地質-----</p> <p>(2) 気候-----</p> <p>(3) 動植物-----</p> <p><b>2.2 社会環境特性</b></p> <p>(1) 人口-----</p> <p>(2) 土地利用-----</p> <p>(3) 産業-----</p> <p>(4) 公共・レクリエーション施設-----</p> <p>(5) 交通-----</p> <p><b>2.3 流域の歴史</b></p> <p>(1) 歴史・文化財-----</p> <p>(2) 行事・イベント-----</p>	<p><b>2.4 河川特性</b></p> <p>(1) 河川区間-----</p> <p>(2) 河川景観-----</p> <p>(3) 水環境-----</p> <p>① 水質-----</p> <p>② 下水道整備-----</p> <p><b>2.5 水利用と空間利用</b></p> <p>(1) 既得用水の状況-----</p> <p>(2) 河川空間利用-----</p> <p><b>3 水害の状況</b></p> <p><b>3.1 過去の被害状況</b>-----</p> <p><b>3.2 主要洪水の概要</b>-----</p> <p><b>4 地震被害</b>----- 34</p> <p><b>5 河川の整備状況</b></p> <p>(1) 河川改修の歴史-----</p> <p>(2) 河道の変遷-----</p> <p>(3) 河川改修事業----- 37</p> <p><b>6 流域の将来像</b></p> <p><b>6.1 まちづくりに関連する主な計画</b>-----</p> <p><b>6.2 神崎川ネオ・リバープラン</b>-----</p> <p><b>6.3 住民意識等と現状の河川整備等に関する課題</b>-----</p>
--	---

# 1 流域の概要

## 1.1 神崎川下流ブロックの構成（神崎川、中島川、左門殿川、西島川）

神崎川下流ブロックは、神崎川が猪名川と合流する地点から左門殿川、中島川、西島川を分派して大阪湾に注ぐ約7.1km区間と、左門殿川、中島川、西島川の3河川を範囲とします。神崎川の流域面積は、猪名川と合流した地点で591.1km<sup>2</sup>、神崎川下流ブロック流域は大野下水道排水区域を含む内水域に属し、これを加え合計608.6km<sup>2</sup>となっています。

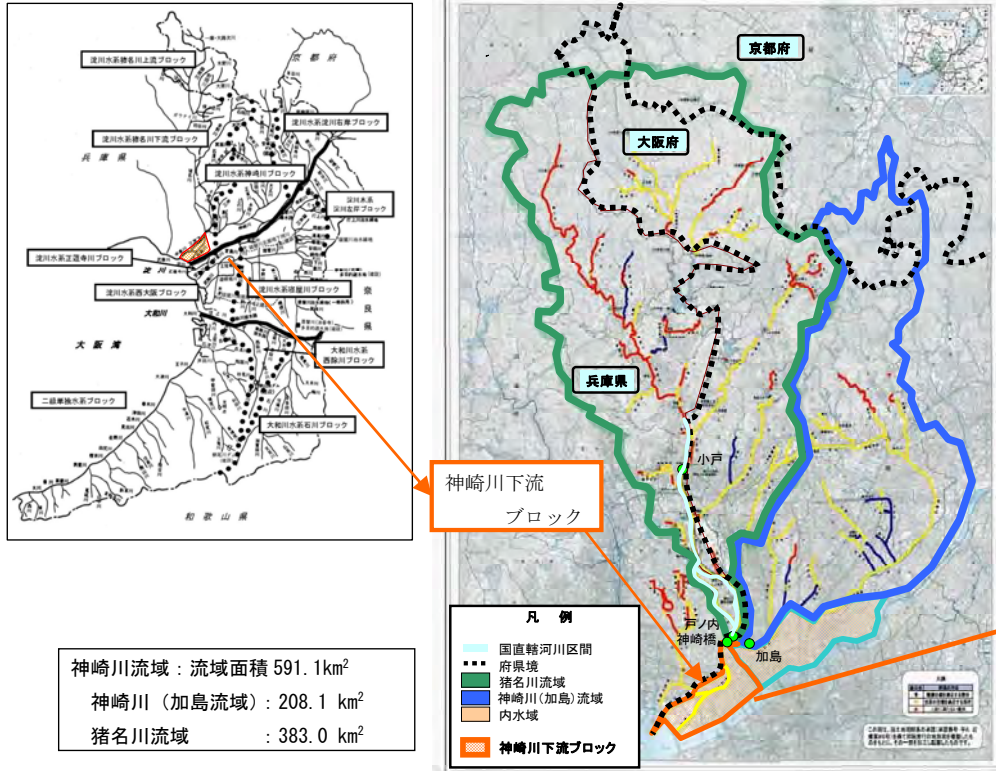


表-1.1.1 対象河川諸元

河川名	河川区間の始点・終点	延長 (km)	備考
神崎川	起点) 大阪湾 終点) 猪名川との合流点 ※一級河川神崎川終点： 淀川からの分派点（摂津市一津屋）	7.10 ※18.59	神崎川下流ブロック延長 ※一級河川神崎川延長
中島川	起点) 大阪湾 終点) 神崎川からの分派点	2.82	
左門殿川	起点) 中島川への合流点 終点) 神崎川からの分派点	2.57	
西島川	起点) 淀川への合流点 終点) 神崎川からの分派点	1.49	

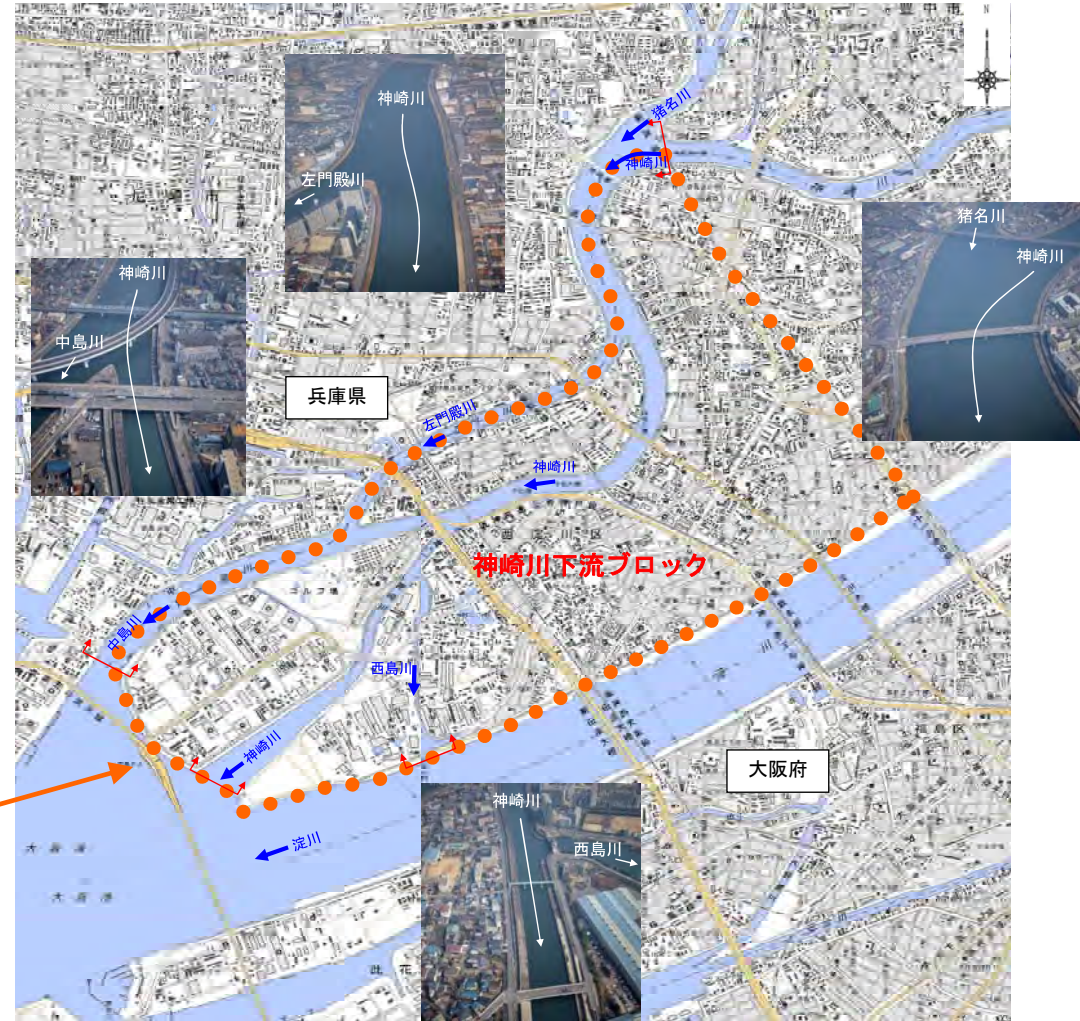


図-1.1.1 神崎川下流ブロック流域位置図

○ 防災船着場

防災船着場は、大地震などの災害時において、陸上輸送に代わり、河川を利用した緊急物資の輸送と物資の荷役、人員の輸送を円滑に行うために、背後に多くの住民が生活する都市河川に整備するものです。また、災害時のみならず、平常時においても、地域住民にとって身近なまとまりのある河川空間として、水辺に親しむことができ、お祭りやイベントなどでの利用、防災教育、防災訓練の場として利用できるような場を提供するものです。神崎川下流ブロックでは、整備済の「佃防災船着場（佃ふれあい公園）」と整備中の「西島防災船着場」があります。

神崎川筋防災船着場の整備諸元一覧表

	高浜	榎木	三国	佃	西島(整備中)
所在地	吹田市	吹田市	大阪市淀川区	大阪市淀川区	大阪市淀川区
整備延長	L=259.2m	L=228.8m	L=572.0m	L=58.5m	L=330m
バース数	2	2	3	1	4
対象船舶	50DWT~400DWT 級台船	—	—	—	貨物船 700DWT 50DWT~400DWT 級台船
広域避難地	中の島公園周辺	アメニティ江坂	新大阪駅北側	佃地区	中島地区 出来島地区
緊急交通路	府道大阪高槻京都	国道423号 国道479号	国道176号	国道2号	国道43号 阪神高速湾岸線
整備年度	H9~H15	H13~H14	H14~H15	H12~H16	H17~

神崎川を活用した防災ネットワークについて

◆防災船着場の整備目的  
防災船着場は、大地震などの災害時において、陸上輸送に代わり、河川を利用した緊急物資の輸送と物資の荷役、人員の輸送を円滑に行うために、背後に多くの住民が生活する都市河川に整備するものです。  
また、災害時のみならず、平常時においても、地域住民にとって身近なまとまりのある河川空間として、水辺に親しむことができ、お祭りやイベントなどでの利用、防災教育、防災訓練の場として利用できるような場を提供するものです。

◆神崎川の防災船着場  
一級河川神崎川では、西大阪治水事務所が主体となって、合計5箇所の防災船着場が整備されております（一箇所整備中）。  
神崎川下流左岸（城島橋下流左岸）の船着場は、上流船着場への緊急物資積み替え基地としての機能としても役割を担い、大型の貨物船も接岸できます。



(3) 河川改修事業

① 治水事業の沿革

神崎川の河川改修工事は、昭和初期の左門殿川への分派工事から着手され、戦前の室戸台風（昭和9年9月）、戦後のジェーン台風（昭和25年9月）、第二室戸台風（昭和36年9月）等の高潮・洪水による被害のたびに復旧工事が行なわれてきました。

昭和25年には、東海道本線より下流において、中小河川神崎川改修工事に着手、昭和36年9月の第二室戸台風による甚大な被害により、高潮対策緊急3ヵ年計画が策定され、堤防の嵩上げを優先して工事が実施されました。

昭和40年度には第二次治水事業5ヵ年計画を策定、高潮対策事業として、出来島水門、西島水門をはじめとする防潮水門10水門を設置、昭和46年以降は、内水排除対策にも着手し、旧猪名川水門（豊中市管理）などの排水機場が設置されました。

大阪湾は、その地形的条件から高潮が発生しやすく高潮対策については、上記のように、昭和25年のジェーン台風、昭和36年の第二室戸台風による被害を契機に高潮対策事業が進められ、現在、神崎川筋では防潮高さが確保できています。

また、西大阪地域では、地盤が弱いこともあり、耐震補強工事を昭和48年度より実施していましたが、平成7年の阪神・淡路大震災を契機に基準を見直し、地震に対しても堤防・護岸が安全に機能するよう再補強を行なっています。

また、大阪府では、神崎川の洪水対策として、全体計画（平成9年11月、治水安全度1/40）に基づき、主に河床掘削を実施しています。

なお、神崎川下流部は、国直轄河川である猪名川が合流した後の下流部を大阪府・兵庫県で管理、整備している特異な区間です。

表-5.1 神崎川の治水事業の沿革

年	項 目
S.7~17	・神崎川本川（河口～藻川合流点）、同派川及び左門殿川の改修に着手 S17年完成（工費約400万円）
S.9.9	○室戸台風により数箇所堤防決壊・崩壊が発生
S.9~10	・室戸台風による被害の復旧工事（L=6,100m） [下流部地盤沈下進行・・・堤防計画高維持できず]
S.19~21	・3ヵ年計画・・・神崎川下流地帯防災事業 [神崎川本川、同派川、左門殿川等の堤防嵩上工事]
S.25.9	○ジェーン台風襲来・・・高潮被害激甚
S.25~34	・中小河川神崎川改修工事に着手・・・東海道本線より下流 ・全体事業費・・・12.5億円 防潮堤・・・12.8km 排水施設・・・2ヶ所 橋梁扛上・・・2ヶ所 ・河口部堤防高0.P.+6.50mとし、上流へ逆勾配 ・防潮鉄扉、排水ポンプによる防潮方式を採用
S.30.12	・猪名川改修計画の改訂により阪急神戸線まで事業区域を延長 （藻川合流点計画を0.P.+5.75mに変更）
S.33	・神崎川中・下流部、工業用水法による地下水汲み上げ規制を実施
S.34	・神崎川河川汚濁対策浚渫事業に着手

表-5.1 神崎川の治水事業の沿革（つづき）

年	項 目
S.35	・地盤沈下ピークに達する ・治水事業5ヵ年計画スタート（S35~39） ・高潮対策事業に大阪地区が採択
S.36.9	○第二室戸台風襲来・・・甚大な被害を受ける ・高潮対策緊急3ヵ年計画発足・・・第二室戸台風の被害を復旧 ・防潮堤・・・22.7km ・橋梁扛上・・・1ヶ所
S.39	・高潮対策緊急3ヵ年計画完成
S.40	・第二次治水事業5ヵ年計画スタート ・大阪高潮対策恒久計画を策定
S.41.11	・旧猪名川水門完成 ・左門殿川、神崎川の阪神西大阪線より東海道線間、天竺川下流部の防潮堤嵩上工事に着手
S.42	・旧猪名川ポンプ場の建設に着手 ・左門殿川、中島川、神崎川の阪神西大阪線より下流部の防潮堤嵩上工事に着手 ・万国博関連事業として高潮対策事業を促進 ・防潮鉄扉（神崎大橋、阪神本線等）の建設 ・神崎川の低水路工事に着手
S.42.7.8	○北摂豪雨により北大阪地域被害甚大
S.43	・神崎川大吹橋下流部の防潮堤嵩上工事に着手
S.44.2.6	・中小河川改修事業安威川全体計画認可（44.2.1 阪治発第54号） ・旧猪名川ポンプ場部分竣工 ・出来島水門改築完成
S.45	・モスリン橋、辰巳橋、中島大橋及び出来島大橋の嵩上完成
S.46.12	・神崎川嵩上工事に着手 ・淀川工事実施基本計画策定
S.47	・阪神本線の嵩上工事に着手。神洲橋の嵩上完成 ・東海道線上神崎川橋梁の改築工事に着手 ・河川汚濁対策浚渫事業が河川浄化事業となる（神崎川等継続）
S.48	・旧猪名川ポンプ場完成（40m <sup>3</sup> /s） ・神崎川上流部の低水路工事概成 ・神崎川河道整備事業に採択
S.49	・中島川の改修工事に着手
S.52	・阪神本線の嵩上工事が完成
S.54	・第五次治水事業5ヵ年計画スタート（S52~56）
S.56	・猪名川流域が総合治水対策特定河川事業に採択
S.57	・神崎橋嵩上工事が完成
S.57~61	・第六次治水事業5ヵ年計画スタート（S57~61）
S.62	・神崎橋上流部嵩上工事に着手
S.62~H3	・第七次治水事業5ヵ年計画スタート（S62~H3）
S.63	・神崎川上流部嵩上工事概成 ・河道整備促進事業採択

高潮対策計画諸元

●計画目標

伊勢湾台風（昭和34年9月）と同規模の大型台風が大阪湾に最悪のコース（室戸台風の経路）を通過して、満潮時に来襲したことを想定して防潮施設を整備する。

●計画高潮位

0. P. +5.20m (= 0. P. +2.20m+3.00)

0. P. +2.20m: 7月～10月(台風期)の朔望平均満潮位

+3.00 : 潮位偏差

(風の吹き寄せ、気圧の低下等による潮位の異常上昇高: 室戸台風実績値)

●計画防潮堤高

河口部

0. P. +8.10m (= 0. P. +5.20m+2.90m)

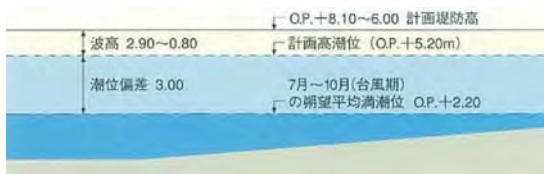
※計画高潮位を0. P. +5.20mとし、変動量(打上げ波高)2.90mを考慮する。

三国橋～大吹橋

0. P. +6.00m (= 0. P. +5.20m+0.80m)

※計画高潮位を0. P. +5.20mとし、変動量(遡上高・波高)0.80mを考慮する。

高潮堤防高 概念図



出典 : 大阪府 西大阪地域高潮対策カタログ 資料

【用語の説明】

計画高潮位: 高潮が発生した場合の海面上昇と満潮位をたした高さで、高潮対策計画の基準となる高さです。

朔望平均満潮位: 朔(新月)および望(満月)の日から5日以内に観測された、各月の最高満潮面および最低干潮面を1年以上にわたって平均した高さの水位をそれぞれ、朔望平均満潮位および朔望平均干潮位といい、このうちの満潮位をいいます。

② 浚渫工事

神崎川では、主に「洪水対策」のため、昭和52年以降定期的に土砂の浚渫工事を行なっています。

表-5.4 土砂浚渫量の経年変化

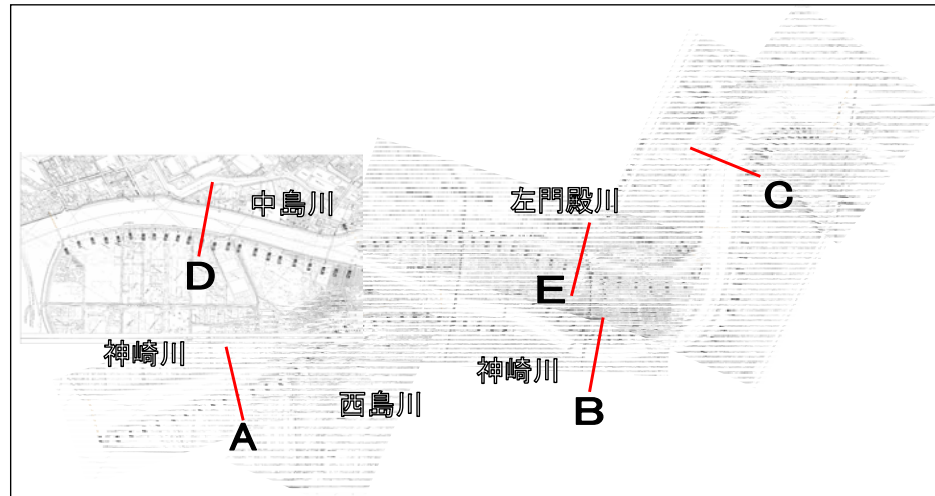
年度	神崎川			中島川			左門殿川			西島川			合計		
	洪水対策	航路維持	小計	洪水対策	航路維持	小計	洪水対策	航路維持	小計	洪水対策	航路維持	小計	洪水対策	航路維持	計
S59	52,954	3,659	56,613	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52,954	3,659	56,613
S60	46,266	1,295	47,561	0	0	0	0	0	0	0	3,774	3,774	46,266	5,069	51,335
S61	31,486	1,733	33,219	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31,486	1,733	33,219
S62	33,734	3,579	37,313	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33,734	3,579	37,313
S63	9,697	6,964	16,661	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9,697	6,964	16,661
H1	67,352	3,876	71,228	0	0	0	0	0	0	0	0	0	67,352	3,876	71,228
H2	142,089	16,043	158,132	0	0	0	0	0	0	2,991	2,991	142,089	19,034	161,123	
H3	70,919	12,598	83,517	0	0	0	0	0	0	5,196	5,196	70,919	17,794	88,713	
H4	36,795	3,173	39,968	0	0	0	0	0	0	5,993	5,993	36,795	9,166	45,961	
H5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,048	6,048	0	6,048	6,048	
H6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,196	5,196	0	5,196	5,196	
H7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,518	2,518	0	2,518	2,518	
H9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,272	1,272	0	1,272	1,272	
H11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,181	2,181	0	2,181	2,181	
H12	50,000	0	50,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50,000	0	50,000
H13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H14	8,161	0	8,161	45,689	0	45,689	0	0	0	0	0	0	53,850	0	53,850
H15	0	0	0	58,929	0	58,929	0	0	0	0	0	0	58,929	0	58,929
H16	0	0	0	62,963	0	62,963	0	0	0	0	0	0	62,963	0	62,963
H17	63,459	0	63,459	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63,459	0	63,459
H18	39,658	3,596	43,254	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39,658	3,596	43,254
H19	50,046	0	50,046	0	0	0	26,736	0	26,736	0	0	0	76,782	0	76,782
合計	702,616	56,516	759,132	167,581	0	167,581	26,736	0	26,736	0	35,169	35,169	896,933	91,685	988,618

出典 : 西大阪治水事務所 神崎川出張所 資料



図-5.9 浚渫工事概要図(平成21年6月現在)

資料 : 西大阪治水事務所 神崎川出張所



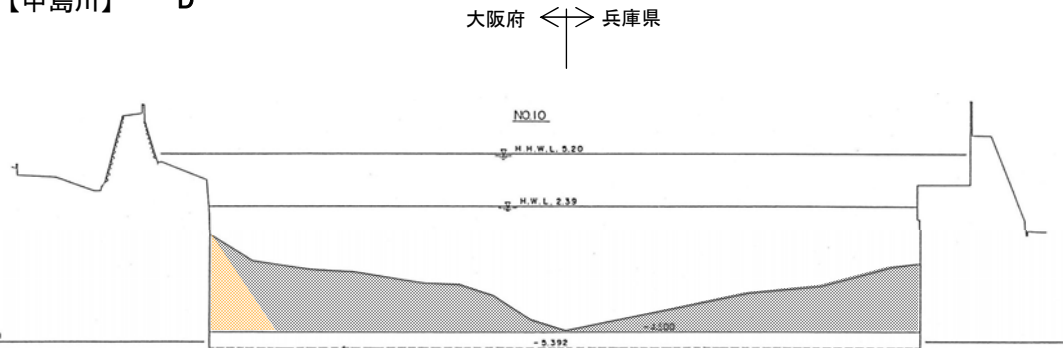
### ③ 防潮堤・鉄扉・防潮扉

現在、神崎川筋では防潮施設（防潮堤、防潮水門、防潮鉄扉）により防潮高さが確保できています。この内神崎川下流ブロックでは、橋梁桁下高が不足する箇所等において、鉄扉・防潮扉といった暫定的な処置により、当面の安全度を確保している箇所が10箇所あります。



図 5.12 防潮堤施設平面図

#### 【中島川】 D



#### 【左門殿川】 E

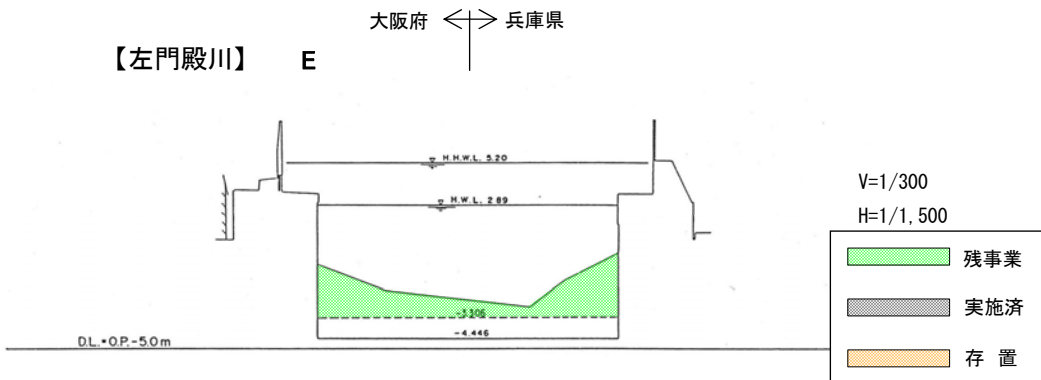


図-5.11 浚渫工事横断面

#### ● 防潮堤断面構造

防潮堤断面構造は、下図の標準断面のように控え壁で固定している鋼管杭、鋼矢板を基礎部とする壁面上部にコンクリート構造の胸壁がある特殊堤の構造形式となっています。

防潮堤断面の構造的な安定については、当該区域防潮堤基礎部が概ね軟弱な土質であるため、前面の低水護岸の耐震補強において、地盤改良が実施されることにより、防潮堤断面の構造的安定が得られることが確認できています。

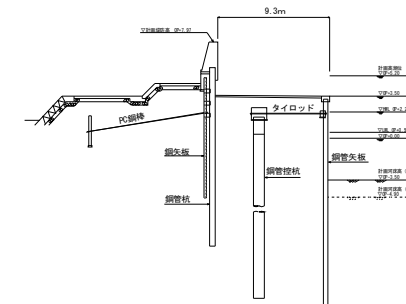


図 5.13 防潮堤 標準断面（神崎川）

表-5.5 鉄扉・防潮扉一覧

河川名	名称		型式	扉体			
				長 (m)	巾 (m)	高 (m)	重量 (t)
左門殿川	左門橋左岸防潮鉄扉	国道2号鉄扉	油圧走行引戸式	23.4	1.20	4.40	40.3
神崎川	神崎大橋右岸防潮扉			23.4	1.20	2.40	19.9
	神崎大橋左岸防潮扉	22.3	1.20	3.33	28.8		
	千船大橋右岸防潮扉	市道鉄扉	アルミ製手動走行引戸式	11.5	0.90	1.00	2.9
	千船大橋左岸防潮扉			11.5	0.90	1.00	2.9
	大和田船溜防潮扉			7.6	0.70	2.10	2.2
	千北橋右岸防潮扉			13.4	1.00	1.35	3.9
	千北橋左岸防潮扉			10.5	0.80	1.00	2.6
	中山鋼業防潮角落			民間鉄扉	鋼製角落	4.35	0.25
合同製鐵防潮鉄扉	電動走行引戸式	6.66	0.60			4.62	11.8

出典：西大阪治水事務所 神崎川出張所 ホームページ



図-5.14 鉄扉・防潮扉設置箇所位置図

出典：西大阪治水事務所 神崎川出張所 ホームページ



神崎大橋左岸防潮扉（国道2号鉄扉）



千北橋左岸防潮扉（アルミ防潮扉）

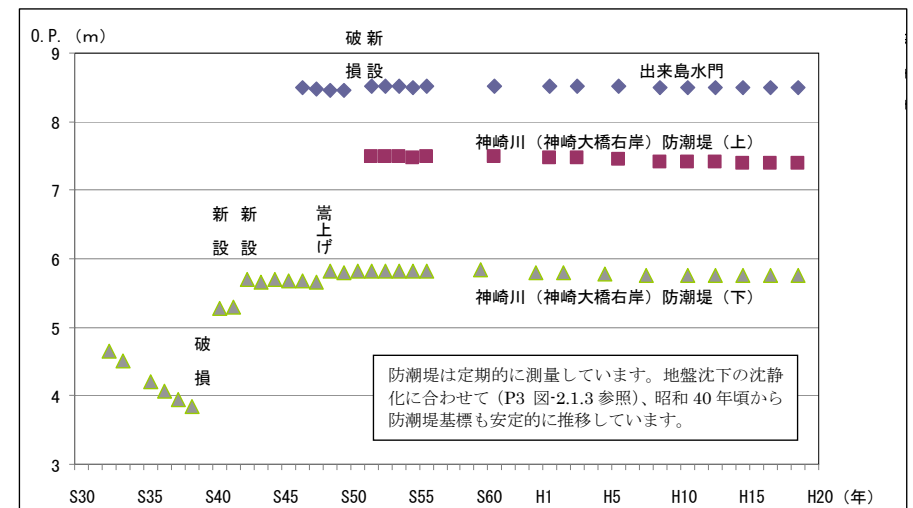


図-5.15 防潮堤基標等経年変化図

データ：平成19年度 一級河川神崎川外 防潮堤基標水準測量委託 大阪市西淀川区地区内 西大阪治水事務所

④ 耐震補強工事

神崎川では、平成7年の阪神・淡路大震災の被害により、順次、堤防や護岸の耐震補強工事を行なっています。

今後、地震防災アクションプログラム（平成21年3月）に沿って、海溝型地震への対応とあわせ直下型地震への対策を並行し、防潮施設の機能が損なわれ浸水被害が発生するおそれがある箇所について照査を行ない、耐震補強を実施します。

表-5.6 直下型地震対応 護岸再補強計画

河川名	構造	全長	全長	対策必要区間	対策実施区間	対策検討区間
神崎川	特殊堤	左岸	5,405m	5,105m	420m	4,685m
		右岸	3,590m	3,260m	—	3,260m
	土堤防	左岸	910m	110m	110m	—
		右岸	1,370m	—	—	—
左門殿川	特殊堤	左岸	2,530m	2,530m	—	2,530m
中島川	特殊堤	左岸	1,620m	1,420m	—	1,420m
		右岸	1,200m	—	—	1,200m
西島川	特殊堤	左岸	1,495m	1,495m	—	1,495m
		右岸	1,450m	1,450m	—	1,450m

(備考) 平成21年6月時点

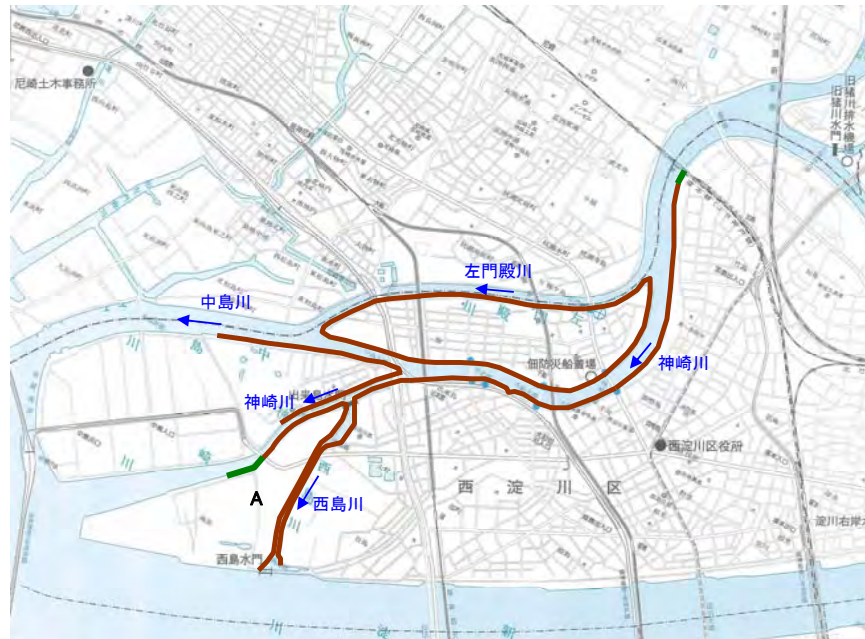


図-5.16 耐震補強箇所位置図 (平成21年6月現在)

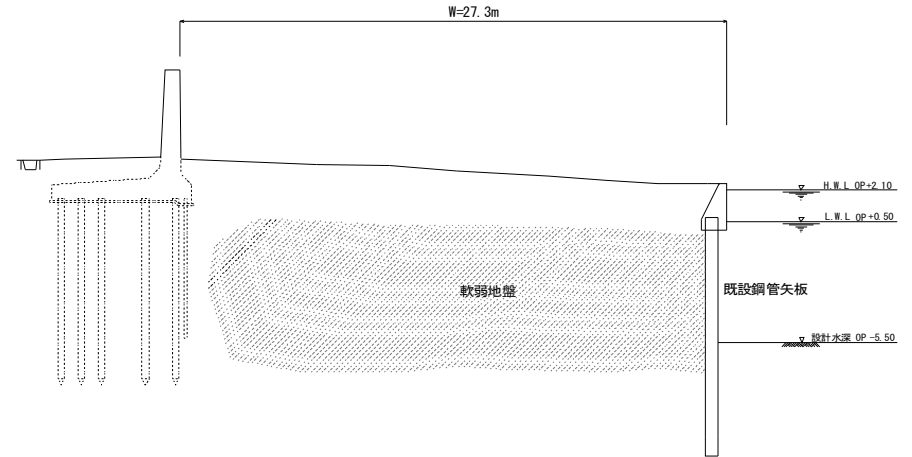
資料 : 西大阪治水事務所 神崎川出張所

A 箇所

耐震補強標準断面図

神崎川河口部

補強前



補強後

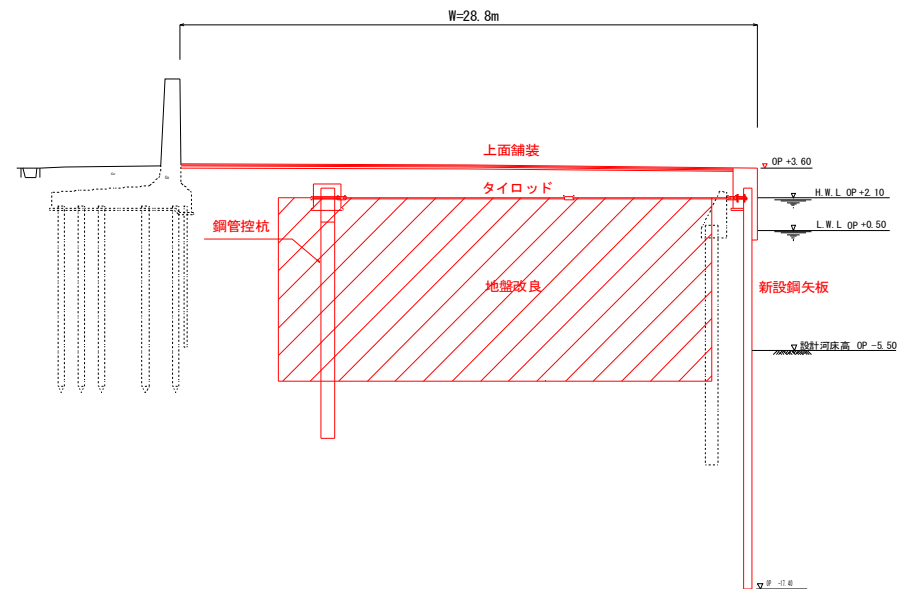


図-5.17 耐震補強箇所横断面図